

令和6年度病害虫発生予察情報 特殊報第6号

ーキュウリ退緑黄化病の初確認についてー

タバココナジラミの防除を徹底しましょう！

令和6年12月24日

発表：福島県病害虫防除所

1 病害名：キュウリ退緑黄化病

2 病原名：ウリ類退緑黄化ウイルス (Cucurbit chlorotic yellows virus : CCYV)

3 発生経過

2024年10月に福島県中通り地方の施設キュウリほ場において、タバココナジラミの寄生及び葉の退緑斑を確認したところ、キュウリ退緑黄化病の発生が疑われた(写真1)。横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、キュウリ退緑黄化病であることが12月に判明した。

県内のキュウリほ場にて発生状況調査を実施したところ、複数地点においてタバココナジラミの寄生及び本病害と思われる株の発生が確認された。

国内では、2004年に熊本県で初めて確認され、これまでに熊本県を含む27府県で特殊報が発表されている。

4 病徴と発生生態

- (1) 発病初期は、葉に退緑小斑点を生じ、次第に斑点が増加・癒合し、まだらに黄化(写真2)、拡大して葉脈間が退緑した黄化葉となる(写真3)。また、黄化葉は、葉縁部が下側に巻く症状を呈する(写真4)。黄化症状は中位葉から下位葉に現れやすく、感染しても生長点付近の葉には症状は認められない(写真5)。
- (2) 本病害は、定植直後から収穫終了時まで発生するが、感染時期が早いほど草勢低下による減収が大きいとの報告がある。
- (3) 本ウイルスは、タバココナジラミ(写真6、7)により媒介される。本種が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、半永続的に伝搬能力を保持する。経卵伝染、種子伝染、汁液伝染及び土壌伝染はしないと報告されている。
- (4) 本病害は、キュウリ黄化病と症状が酷似しており、肉眼による診断は困難である。キュウリ黄化病はオンシツコナジラミ(写真8、9)によってウイルスが媒介される。

5 寄生植物

本ウイルスは、主にウリ類に感染し、国内ではキュウリ以外にメロン、スイカで発生報告がある。

6 防除対策

(1) 育苗～定植前

ア 育苗中に感染すると症状が激しくなるため、ハウスの開口部(天窓含む)に0.4mm目合の防

虫ネットを設置し、育苗ハウス内にタバココナジラミが侵入しないよう注意する。

イ ハウス周辺の雑草を防除し、タバココナジラミの寄生と増殖を防止する。特に雑草のカラスウリは伝染源となる可能性があるため、塊根まで完全に除去すること。

ウ 定植前の育苗期にコナジラミ類防除のための薬剤を処理する（表1）。

(2) 栽培期間中

ア 定植後は、タバココナジラミの防除のため薬剤散布を徹底する（表2）。

イ タバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避ける。

ウ 疑わしい病徴の株はすぐに除去し、コナジラミ類が寄生していないことを確認後、ほ場外へ持ち出して処分する。

(3) 栽培終了後（施設栽培）

ア すべての株を抜根または地際部を切断した上で、キュウリが完全に枯れあがってから、春や秋期では5～6日程度、夏期は3～4日程度密閉して蒸し込み、タバココナジラミを死滅させる。蒸し込みの目安としては、40℃以上で1日7時間程度確保する。

イ キルパーによるコナジラミ類まん延防止対策を実施する。

7 出典・参考資料

(1) あたらしい農業技術 メロン（キュウリ）退緑黄化病を発生地域から根絶する対策技術
No.637 平成29年度 静岡県経済産業部

(https://www.pref.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/025/694/637.pdf)



写真1 キュウリ退緑黄化病に感染した株



写真2 まだらに黄化した葉



写真3 葉の黄化症状



写真4 下向きに巻いた葉



写真5 感染しているが無病徴の生長点



写真6 タバココナジラミ成虫



写真7 タバココナジラミ幼虫



写真8 オンシツコナジラミ成虫



写真9 オンシツコナジラミ幼虫

表1 キュウリの育苗期に使用可能なコナジラミ類対象薬剤の一例

薬剤の名称	使用量	散布液量	使用時期	使用方法	使用回数	IRAC コード
アルバリン粒剤	1～2g/株	-	育苗期	株元散布	1回	4A
ベストガード粒剤	1g/株	-	育苗期	株元処理	1回	4A
ミネクトデュオ粒剤	1g/株	-	鉢上げ時～ 育苗期後半	株元散布	1回	4A・28
ベリマークSC	25mL/株、400倍 または 50mL/株、800倍		育苗期後半～ 定植当日	灌注	1回	28

※ベリマークSCは、育苗期後半または定植時いずれか1回とする。

※本内容の一部については、令和6年度福島県病害中防除指針を参考にした。

※上記の薬剤は令和6年12月10日付時点における登録内容である。使用時はラベルをよく確認し、最新の情報に従って使用すること。

表2 キュウリの栽培期間中に使用可能なコナジラミ類対象薬剤の一例

薬剤の名称	希釈倍率	使用時期	使用方法	使用回数	IRAC コード
ウララDF	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	29
グレーシア乳剤	2000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	30
サフオイル乳剤	300倍	収穫前日まで	散布	-	-
サンマイトフロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで	散布	2回以内	21A
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	4A
ディアナSC	2500倍	収穫前日まで	散布	2回以内	5
トランスフォームフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	4C
フーモン	1000倍	収穫前日まで	散布	-	-
ベストガード水溶剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	4A
モベントフロアブル	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	23

※上記の薬剤は令和6年12月10日付時点における登録内容である。使用時はラベルをよく確認し、最新の情報に従って使用すること。

本病害の発生が疑われる場合は、病害虫防除所又は最寄りの農林事務所（農業振興普及部・農業普及所）に速やかに連絡してください。

病害虫発生予察情報・各種情報は、福島県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

問い合わせ先：福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）

TEL：024-958-1709 FAX：024-958-1727 e-mail：yosatsu@pref.fukushima.lg.jp